

## ミヨベプロジェクト第二回中間報告書

プロジェクト資金提供者：国際ロータリー（R I）ロータリー財団

参加ロータリー：キガリ・ヴィルンガロータリークラブと保原ロータリークラブ

協力団体&実施機関：NPO 法人ルワンダの教育を考える会（NPO TER）



活動の場所：ギチュンビ地区・ミヨベセクター・ニヤミヤガ村

報告対象期間：2022年6月～2023年2月

総予算：3年間 49,821,000 ルワンダフラン（内今期 24,922,500 ルワンダフラン）

キガリ; 2023年3月報告

## 1. 背景

ルワンダのキガリ・ヴィルンガ・ロータリークラブと日本の保原ロータリークラブは、NPO TER と提携して、ISPRM（ギチュンビ地区ミヨベ最貧困住民自立支援、以下 ISPRM と表記）と呼ばれる国際ロータリー・グローバル補助金事業を申請し、2021 年 6 月にプロジェクトが開始されました。栄養失調の問題に対処し、居住者が自宅で衛生的な生活を営めるように環境改善を図り、最終的には各居住者が自立して生活できるようにします。プロジェクト開始以来、農業活動や貯水装置・家庭用家具・かまどの製作研修など様々な活動を行ってきましたが、3 年間のプロジェクトとして現在も活動は続いています。このレポートでは、プロジェクトの第 2 フェーズと第 3 フェーズで行われた以下の活動のハイライトを紹介します。

- 農業シーズン 2022B、アイルランドのジャガイモの農園を開拓
- 農業シーズン 2023A、アイルランドのジャガイモとトウモロコシのプランテーション拡大
- 成人の読み書き能力の学習
- Miyove 地区の 25 戸の住宅に集水用雨水タンクを設置
- 25 軒のカマド製作（組み立てられたストーブ）
- 第 2 段階として 20 世帯に製作した家具を寄贈
- 25 戸の住宅に電気設備を設置

## 2. 農業活動

### A. プロジェクト第 2 フェーズの農業シーズン 2022B

2022B 年の農業シーズン中、私たちの ISPRM プロジェクトでは、特に農業活動においてプロジェクトの第 2 フェーズにあり、このシーズンにはさまざまな活動が行われました。行われる活動には、一次耕作と二次耕作による土地の準備、酸性度を下げるために土壌に石灰を添加する土壌改良、土壌の有機栄養素を増加させるために堆肥を添加する、土壌中の主要栄養素を増加させるために土壌に無機肥料を添加するなどが含まれます。また、雨期の流出を捕らえ、土壌浸食とその影響を軽減するための溝も作りました。溝に沿って草を植えました。これも土壌浸食を軽減するのに役立ち、動物の餌として使用され、堆肥も得られます。



アイルランド産ジャガイモの生育監視  
(2022 年 3 月)

最初の活動の後、次のステップはアイルランドのジャガイモを植えることでした。

私達は 2.5 ヘクタール相当の耕地に 1,010kg の種を植えました。 植え付け後は、無機肥料（NPK）を作物に添加し、害虫や病気を減らすために殺虫剤や殺菌剤を散布して、一次除草と二次除草を行います。

### 収穫結果と関連する活動

前述したように、過去の他のシーズンに比べて収穫量は非常に多かったです。 私たちは 2.5 ヘクタールに 1,010kg のアイリッシュジャガイモの種を植えました。 GAP（Good Agricultural Practice：良い農業のやり方）を実施した結果、7,154kg、つまり 7 トン以上の収穫を達成しました。 収穫物はミヨベの最も貧しい家庭の 25 以上の家族に分け与えられ、このコミュニティの栄養失調・・・特に子供たちの健康の問題を改善・維持し、学校でより良い成績を収めるための食事を提供することを目的としています。

これとは別に、アイルランドのジャガイモの栽培を促進するさまざまなグループの形成があり、6 トン



を超えるアイルランドのジャガイモが収穫され、第 2 段階では合計 13 トンの収穫が得られました。これは、コミュニティを増やして教育した結果です。住民は、より多くの現代的な栽培方法に触れることが出来ました。

## B. プロジェクト第 3 フェーズの農業シーズン 2023A

### 1. 土地の準備と種まき活動

2023A 年の農業シーズン中、ISPRM プロジェクトの第 3 フェーズ、特に農業分野において、このシーズンにはさまざまな活動が行われました。行われる活動の中には、一次耕作と二次耕作を行って土地を準備すること、土壌の有機栄養素を増加させるために堆肥を追加すること、土壌中の主要栄養素を増加させるために土壌に無機肥料を追加することが含まれます。また、雨期に流出物を捕捉し、土壌浸食とその影響を軽減するための溝も作りました。



種まき期（2022 年 2 月）



土地準備段階（2022年2月）

## 2. 収穫活動

収穫は良くありませんでしたが、なんとか 5.5 トンのアイランド産ジャガイモを収穫することができました。収穫物はコミュニティの 25 家族に分けられ、収入を生み出す活動の 1 つとして羊以外の一部の家族を助けました。



アイランド産ジャガイモの収穫活動の様子

## 3. 家庭菜園の構築

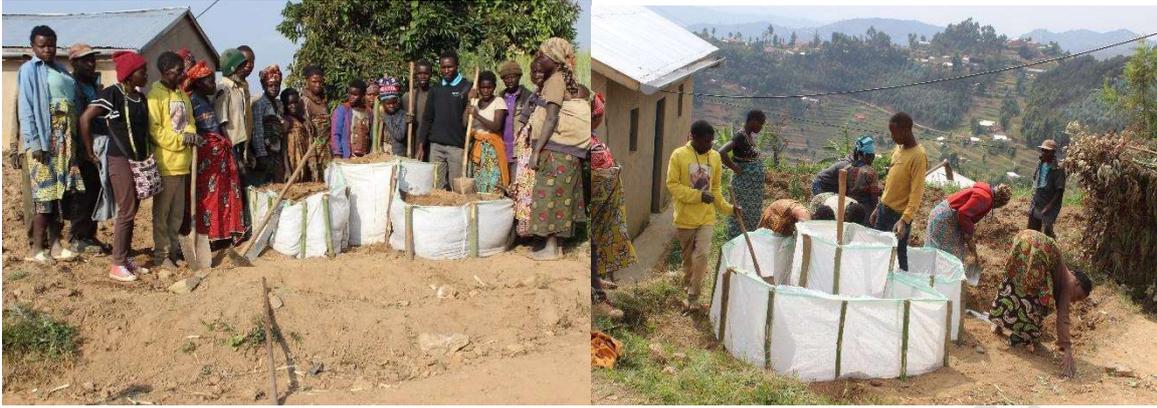
プロジェクトの第 3 段階では、地域の栄養失調の問題を解決するために家庭菜園が建設され、バランスの取れた食事を準備するために他の食事に加える野菜を栽培しています。これらは子供たちとその親の両方をサポートしており、一部は販売もしています。収入を得るため、25 世帯全員に建設された家庭菜園が与えられました。

- これらの最初の活動の後、次のステップはアイリッシュジャガイモとトウモロコシを 2.5 ヘクタールに植えることでした。植え付け後はアイリッシュジャガイモには無機肥料（NPK）を、トウモロコシにはリン酸二アンモニウム（DAP）と尿素を添加し、1 次除草と 2 次除草を行い、害虫や病気を減らすために殺虫剤や殺菌剤を散布しました。



写真は 2022 年 3 月 9 日に撮影されました

トウモロコシの成熟が遅れた理由は 2 つあります。1 つは 2023A シーズンの雨不足で、これはよく知られた気候変動による国全体の問題でした。2 つ目は、ミヨベが位置する北の高山地帯の寒冷気候によるものです。



Mi

ミヨプロジェクトで家庭菜園を構築する方法に関する知識の伝達

#### 4. ミヨベで温室栽培を始めるため、UNILAK の温室を訪問調査

この訪問は、プロジェクトの技術チームリーダーであるサイディ博士とプロジェクトの農学者であるオバード氏によって実施されました。訪問は、請負業者（バルトン）の製品と彼らが私たちに提供するものを比較する枠組みの中で行われました。結果、バルトンの温室は優れており、費用対効果が高いと結論付けました。



バ

バルトンが建設した温室の訪問

#### 5. プロジェクトの第 3 段階における成人の読み書き能力の向上

ミヨベのコミュニティのほとんどは教育を受けておらず、母国語の読み書きもできないため、自らビジネスのアイデアを生み出すことができず極度の貧困に陥っています。そのため、このプロジェクトで計画されている研修の一環として、成人の読み書き能力の向上にも取り組むことにしました。これは週に 3 回行われ、協会の会議議事録の記録、銀行との取引、健康ポスターの閲覧など、さまざまな活動でコミュニティメンバーの日常生活に大きく貢献します。

これまでのところ、16 歳から 50 歳までのコミュニティメンバーのうち 65 人が成人識字のために登録しています。このコースは 6 か月の期間でカバーされます。成人識字に使用されるカリキュラムは、ワンダ教育省によって承認されています。



NPO TERスタッフがサポートする成人識字プログラムの授業中のミヨベコミュニティ

## 6. 家庭用家具の製作と寄贈

プロジェクトのこの第2段階では、椅子とテーブルを作るためのトレーニングが提供され、製造された家庭用家具はミヨベコミュニティに住む25家族のうち特定の20家族に寄付されました。家庭用家具を作成して寄贈する目的は、座る場所を提供し、地域の衛生文化を強化し、この地域に住む住民に木工技術を教えることです。



家庭用家具を寄贈（2022年9月）



家具を受け取り喜ぶ家族（2022年9月）

## 7. 雨水の収集と貯水タンクの設置

- もう1つの活動は、地域の水源となる雨水を集めて受益者の家にタンクを設置することでした。タンク設置後は家庭での衛生管理が強化され、食器や手洗いの習慣が身についています。残った水はバランスの取れた食事を作るための野菜を得るために設置した自宅近くの家庭菜園の作物灌漑用に使用されます。

- コミュニティに水がなかった時代と、雨から水を集められるこの時代と比較して、コミュニティのメンバー自身が、近くにある水は衛生面で役立つだけでなく、水を汲むための一日に数キロメートルに及ぶ移動がなくなったので時間の余裕が生まれ、自分自身の成長にも役立つと言っています。



## 8. 電気の設置

25 戸の住宅に電気が設置され、地域住民に電気を利用できる機会が与えられました。これにより、地域住民に理容師や電話の充電などの新しい仕事の創出などの機会が開かれ、地域住民の生活水準と衛生状態の向上に役立ちます。彼らの家で、子供たちは授業などを復習します。



## 9. カマドの設置

調理中に使用される薪を減らし、呼吸器疾患と闘い、気候変動と闘うために、私たちは地域住民が調理する際に役立つカマドの製作研修を行いました。



かまど製作研修の様子（2022年9月）



かまど完成品（2022年9月）

## 10. 新たな取り組み

このプロジェクトの第2フェーズでは、ISPRM プロジェクトの活動により、さらに新しい取り組みが生まれました。また、自らの発展を目的とした新しいグループの結成もありました。この素晴らしいアイデアは、彼らがこのプロジェクトから利益を得ていることに気づいたことで生まれました。



新たな家の建築（2022年10月）



協同組合の貯蓄による羊の飼育（2022年10月）

この収入源は、農業活動中の奨励金、大工仕事を学んだ人への研修奨励金、雨水収集、タンク設置、電気設備、かまど建設に携わった人たちに支払われるお金、そして農業活動中に分け与えられたアイルランド産ジャガイモの収穫から得たお金によって得られています。

これらすべての収入源により、地域住民は自分たちのために羊、鶏、ヤギを購入するようになりました。良いニュースとしては、受益者の一人がプロジェクト開始以来自分で貯めた貯蓄を元に自分の家を建てたということで、私たちはこのプロジェクトを通じてさらなる成果が期待できると信じています。

Interim report



## 1 1. モニタリング調査



コミュニティでモニタリング中の NPO TER スタッフ（2023 年 3 月）

私たちは、与えられたタンク、電気、カマド、調理器具がどのように使用されているかを評価し、コミュニティのメンバーが直面している課題を確認するために、ミヨベで行われた活動全体のモニタリングを実施しました。この調査で使用したフォームを通じて、これが成功したことを実感しました。与えられたすべてのアイテムの92%がまだコミュニティに残っていること、一部の側溝を修理する必要があるものの、すべてのタンクは100%正常であること、電気は89%正常に稼働していること、一部の家にはキャッシュパワーの問題があったため、私たちはそうしました。コミュニティメンバーに対するセクターレベルへの擁護。調査の詳細は、このレポートに添付されているアンケートにまとめられています。